

# 「時間は止まったまま」

## 花菜さん両親 変わらない不信感 胸中を吐露

2010（平成22）年6月、静岡県浜名湖で野外活動中に豊橋市章南中学校のカッターボートが転覆し、1年生の西野花菜さん（当時12）が死亡した事故からあす18日で5年となる。事故の再発・風化防止に奔走した両親の「時」は5年前から止まり、当時の校長や教員らへの不信感は変わらない。

### 豊橋章南中 ボート事故あすで5年

豊橋市内の自宅にある花菜さんの部屋、習っていたピアノもバイオリンも当時のまま残る。両親は毎食3人分の食事を食卓に並べる。「私たちの時間は止まったまま」。

事故後、真相究明を求める署名活動や、海難審判など事故原因の解明や関係機関へ事故防止を働きかけ続けた。教員らの責任を問うため

| 静岡県浜名湖・ボート転覆事故経過 |                                                                                                        |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2010年 6月         | 浜名湖でボート転覆事故が発生。野外活動中だった章南中学1年生の西野花菜さん（当時12）が死亡                                                         |
| 10月              | 両親が真相究明と再発防止を求める「要望書」を豊橋市長に提出                                                                          |
| 11月              | 両親が豊橋市に真相究明と再発防止を促すよう市議会に1万6000人余の署名を添え「請願書」を提出                                                        |
| 12月              | 県立三ヶ日青年の家で追悼集会「菜の花キャンドル」開催                                                                             |
| 11年 4月           | 市が小・中学校の「校外学習安全マニュアル」を公表                                                                               |
| 6月               | 事故の再発と風化防止を誓い命日（18日）に「豊橋・学校のいのちの日」を始める                                                                 |
| 12年 1月           | 国の運輸安全委員会が事故の調査報告書をまとめ、悪天候時のボート訓練中止基準の不整備とボートをえい航した施設所長（当時）の知識と経験の乏しさを指摘。静岡県教委や施設の指定管理者に指導マニュアル作成などを勧告 |
| 3月               | 両親が豊橋市長へ謝罪を求める                                                                                         |
| 5月               | 損害賠償を求め両親が市と静岡県、指定管理者を提訴 年内に和解が成立                                                                      |
| 13年 2月           | 静岡県警が元校長と所長ら6人を書類送検                                                                                    |
| 12月              | 追悼集会「菜の花キャンドル」が豊橋市に開催地を移す                                                                              |
| 15年 1月           | 静岡地検が業務上過失致死の罪で所長を在宅起訴し、元校長ら5人を嫌疑不十分で不起訴                                                               |
| 3月               | 静岡地裁で裁判が始まる                                                                                            |

豊橋市へ謝罪を求め、12年には市など風化防止のため章南中に両親が設置した「花菜文庫」には、今でも毎月積み立てる花菜さんの小遣いから定期的に本を購入し寄贈を続ける。

今年1月、研修施設の元所長が業務上過失致死の罪で在宅起訴された。その一方で元校長らは不起訴。父・友章さん（56）は「現場にいた校長や教員らが行ったことに對して刑事裁判の中ではつきりさせ、花菜が亡くなった理由を知りたかった」と悔しさをにじませる。

安全面を施設に任せ、大雨・雷・強風



命日前日の17日には第4回公判が静岡地裁で行われ、今後元校長も出廷する。母・光美さんは傍聴席でいつも、ボート訓練前に宣誓をする不安そうな表情の花菜さんの写真を握る。「今は涙を我慢して、裁判を見よう

・洪水注意報が出された悪天候にもボート訓練の中止を求めなかった教諭ら。ようやく始まった裁判を傍聴し、元担任の証言から安全管理意識の欠如を感じ「花菜は学校に殺された」と痛感した。

一方、これまで市教委は事故翌年に「校外学習安全マニュアル」を策定し、毎年改定してきた。活動実施判断基準や、児童・生徒名簿の作成、実施計画書の提出、利用施設の下見などを指導し、教員研修も開いてきた。

ぬいぐるみや花菜さんお気に入りの歌手のCDが置かれる祭壇の前に佇む父・友章さん。豊橋市内の自宅で「決めた」と娘が死ななければならなかった事実と向き合う。

しかし、数回の質問で姿を見せなくなった教諭たち。自分たちは悪くないと思っている。不起訴判断で法的な責任はなかったとの思いが強くなれないか、花菜の死はなんだったのか」と友章さんは無念さをかみしめる。

元校長への不起訴が不服だとして検察審査会への申し立ても検討する。願いは2度と事故を起こさないこと。「じつかり花菜の死を受け止めてほしい」。